

## SDGs 目標 11



団体名 : **Make One World**

安心して住み続けられる社会を目指して

SDGs 達成に向けて自分たちに出来ることを考えてみよう

### ミレニアム開発目標 (MDGs : Millennium Development Goals)



1. 極度の貧困と飢餓の撲滅



2. 普遍的初等教育の達成



3. ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上



4. 乳幼児死亡率の削減



5. 妊産婦の健康の改善



6. HIV/エイズ、マラリアその他の疾病の蔓延防止



7. 環境の持続可能性の確保



8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

2001年にまとめられた2015年までの国際目標

特に途上国の人々が直面していた多くの問題解決を目指す

#### 成果例

1990年~2015年の期間で

- ・ 極度の貧困で暮らす人の数 (1日あたり135円未満で生活しなければならない状態)  
→ 半数以下に減少 (10億人以上減少)
- ・ 乳幼児死亡率 (5歳未満児)  
→ 半数以下に減少 (500万人以上減少)
- ・ 2015年 : 世界の人口の95%が携帯電話の通話可能域で暮らしている

# 持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals)



“誰一人取り残さない” 持続可能でよりよい社会の実現を目指す

2015年にまとめられた2030年までの国際目標

17のゴールと169のターゲットから構成されている



## 目標 11 住み続けられるまちづくりを

“だれもがずっと安全に暮らせて、  
災害にも強いまちをつくらう”

すべての人のことを考えて以下の実現を目指す

(特に貧しい人や弱い立場の人 (【女性、子供、障害のある人、お年寄り】))

- ・ スラム (都市の貧しい人びとが住む地域) の状況改善
- ・ 持続可能な交通手段の実現
- ・ 文化遺産、自然遺産の保護
- ・ 水害などの災害による被害を減らす
- ・ 環境に与える影響を減らす (大気の水質やごみの処理)
- ・ 安全で使いやすい緑地や公共の場所の確保



## 外国の状況

### 問題

- ・中国

仮想通貨の電力大量消費で生じる CO2 排出の増加が問題となっている

- ・インドネシア

首都ジャカルタは海面上昇で水没するリスクを抱えており、首都移転や移住などが検討されているが、根本的な解決につながらないため問題となっている

- ・スラムでの生活を送る人：8 億人以上（ほとんどが東アジアと東南アジア）

・世界の都市に住む人：約 35 億人（都市膨張の 95%が途上国で起こり、2030 年には 50 億人を超えると予想される）→自動車の増加

により 渋滞→輸送力低下

排出ガス増加→温暖化

・雨や風などの天候に左右されない輸送サービスを利用できない→農村からの農作物の輸送困難

- ・世界で起こる大規模災害のうち 8 割が水災害

### 対策

- ・イギリス

都市部の過密緩和を目的に

政府が新しい機関を設置する際は、本部を可能な限り地方に置く

- ・フランス

過疎地域に企業を設立した場合、所得税や法人税の免除や減税を行っている

- ・ドイツ

自動車メーカーは大都市の交通をクルマに合わせた環境からヒトに合わせた環境に作り変えるために、電気自動車のシェアや電動スクーターの設置などの事業を行っている

- ・アメリカ

行政が管理していた都市公園を民間企業に委託することで営利的な公園利用が可能になりカフェや水族館などが開業し、公園の活性化につながっている

- ・オランダ

低地なオランダでは、数多くの水害に悩まされているが、水上に住宅を浮かべる方法や海と河口を切り離す堤防の建設などの対策を行っている

## 国内の取り組み

近年、日本では全国各地で豪雨による土砂災害や川の氾濫の被害が相次ぎ、国や自治体、個人の災害対策が問題になっています。

毎年、災害の起こる日本で持続可能で住み続けられるまちづくりをするにはどんな取り組みが必要なのでしょう。過去の災害を例に考えてみましょう。

### 広島県豪雨土砂災害（2018年7月6日）

#### ・概要

2018年7月5日から8日にかけて西日本に停滞した梅雨前線の影響により、西日本から東海地方にかけて記録的な大雨が発生しており、広島県では大雨によって土砂災害が発生した。全国で死亡・行方不明者 232 名、うち広島県では死亡・行方不明者 114 名にのぼる大規模災害となった。

#### ・被害を抑えるにはどうしたらよかったのか

多くの方は避難指示が出ていても避難せずに家にいたり、近所付き合いがなく、自治会にも入っていない方は情報が伝わらず避難できなかつたり、避難の呼びかけをする人数が足りないなどの課題がありました。一方で 4 年前に起きた広島県豪雨の被害を教訓に年に 2 回の防災避難訓練の実施や防災ラジオの配布、自主避難者の増加など防災意識の高まりを感じる良い傾向もあったそうです。

以上より、防災情報の入手や避難状況の確認には地域のつながりが必要であると感じ、自治体に入っていない家庭にも家庭訪問の実施や、防災情報の共有に力を入れ、地域全体で一人も取り残さないという意識で地域のつながりを作っていく事が重要だと感じました。

## 都市大生にできること

東京都市大学は 2019 年 10 月 12 日に台風 19 号の影響で多摩川支川の内水氾濫による浸水被害を受けた経験があり、大雨の被害を受けた経験があるからこそ、地域に根ざした都市大学生であるべきと考えます。

ここまで SDGs を学んできて、目標 11 の住み続けられるまちづくりを実現するために災害に強いまちづくりを考えてきました。災害に強いとは強靭さだけでなく、持続可能な地域のつながりの強さであると感じます。有事の時だけでなく、地域の方が安心できる都市大学生を目指していきましょう。